

▼注目すべき追加・変更項目（一部を抜粋，赤色部分が変更箇所）

社会・環境と健康		
概要	<p>前回から変更された小項目の数が2番目に多かった科目が「社会・環境と健康」です（1番目は食べ物と健康）。持続可能性、新しい統計用語、近年スタートした新制度に関連したキーワードなどが小項目に追加されています。以下の項目は、特に注意しておきましょう。</p>	
大項目	中項目	小項目
1 社会と健康	C 社会的公正と健康格差の是正	a 社会的公正の概念
		b 健康の社会的決定要因，健康格差
4 健康状態・疾病の測定と評価	C バイアス，交絡の制御と因果関係の判定	b 交絡と標準化
	E 根拠（エビデンス）に基づいた医療（EBM）及び保健対策（EBPH）	c 診療ガイドライン，保健政策におけるエビデンス
	F 疫学研究と倫理	c 利益相反
5 生活習慣の現状と対策	C 喫煙行動	d 受動喫煙防止
6 主要疾患の疫学と予防対策	G その他の疾患	d 難病法と難病対策
7 保健・医療・福祉の制度	C 医療制度	e 保険者の役割とデータヘルス計画
	F 母子保健	h 児童虐待防止
	I 産業保健	g メンタルヘルス対策，過労死対策
	K 国際保健	c 持続可能な開発目標（SDGs）
人体の構造と機能		
概要	<p>他の科目と比べて前回から変更された項目数は少ない（小項目で6%程度）科目でした。以下については新たに用語や疾患名が明記されているため，今回以降出題される可能性があります。概要を理解しておくといでしょう。</p>	
大項目	中項目	小項目
3 生体エネルギーと代謝	A 生体のエネルギー源と代謝	d 電子伝達系と酸化的リン酸化
		e 脱炭酸たんぱく質（UCP）
17 生殖系	A 生殖器系の構造と機能	b 男性生殖器疾患；前立腺肥大，前立腺がん
		d 女性生殖器疾患；乳がん，子宮体部がん，子宮頸がん
食べ物と健康		

概要	全9科目の中で、前回から変更された小項目数をもっとも多かった（約25%）のが、食べ物と健康です。言い回しや項目の整理が中心ではあったものの、下記の食品表示に関しては試験で出題しやすい内容のため基礎的知識をおさえておくといよいでしょう。		
大項目	中項目	小項目	
5 食品の表示と規格基準	B 食品の表示方法	b 食品安全確保の表示；保存方法，遺伝子組換え食品，アレルギー	
		c 品質表示；原料・原産地表示，原材料名，賞味・消費期限	
		C 食品の規格基準	a 成分規格
		E 器具・容器包装の規格基準と表示	b 表示；識別表示，識別マーク
6 食品の生産・加工・保存・流通と栄養	B 食品加工と栄養，加工食品とその利用	j 冷凍食品，インスタント食品，レトルトパウチ食品とその利用	
基礎栄養学			
概要	前回から変更された項目数は少なく（約7%），新傾向としておさえたいテーマが目立ってみられなかった科目です。注目する箇所を選ぶとしたら小項目に「口腔」が追加され「舌腺」が削除されたことなど口腔周りの変更が挙げられます。		
大項目	中項目	小項目	
3 消化・吸収と栄養素の体内動態	A 消化器系の構造と機能	a 口腔・食道・胃・小腸・大腸の基本構造	
	C 消化過程	a 唾液腺	
応用栄養学			
概要	出題傾向に影響が出そうな項目の変更は少なく、項目の整理が中心に行われた印象です。気になる変更点としては、中項目「高齢期の生理的特徴」の中の「ADL（日常生活動作），IADL（手段的日常生活動作）の低下」で、今回「IADL」という言葉が新たに追加されました。IADLとADLとの違いを整理しておくといよいでしょう。		
大項目	中項目	小項目	
3 成長，発達，加齢	A 成長，発達，加齢の概念	a ライフサイクル	
8 高齢期	A 高齢期の生理的特徴	h ADL（日常生活動作），IADL（手段的日常生活動作）の低下	
栄養教育論			

概要	<p>前回から変更された項目は全体の10%程度と少なめでしたが、出題傾向に影響が出そうな変更がいくつかみられました。特に、大項目「栄養教育のための理論的基礎」内に追加項目が多く「ヘルスリテラシー」「認知行動療法」「動機付け面接」「ナッジ」が新たに小項目として明示されています。これらのキーワードは基本的知識をおさえて、栄養教育への具体的な活かし方をまとめておくとよいでしょう。</p>	
大項目	中項目	小項目
1 栄養教育のための理論的基礎	A 行動科学の理論とモデル	i ヘルスリテラシー
	B 栄養カウンセリング	c 認知行動療法
		d 動機付け面接
	C 行動変容技法と概念	l ナッジ
2 栄養教育マネジメント	F 栄養教育の評価	a 評価指標と評価基準の設定
臨床栄養学		
概要	<p>出題傾向に影響が出そうな変更は少ない印象（7%程度）でした。中項目「妊産婦・授乳婦疾患の栄養アセスメントと栄養ケア」の「妊娠糖尿病，糖尿病合併妊娠」で「糖尿病合併妊娠」と疾患名が追加されていたため、2つの具体的な違いを説明できるようにしておくともよいかもしれません。</p>	
大項目	中項目	小項目
3 疾患・病態別栄養ケア・マネジメント	D 循環器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア	e 不整脈；心房細動，心室細動，心室頻拍
		f 脳出血，脳梗塞，くも膜下出血
	T妊産婦・授乳婦疾患の栄養アセスメントと栄養ケア	a 妊娠糖尿病，糖尿病合併妊娠
公衆栄養学		
概要	<p>出題傾向に影響が出そうな変更が多い印象です。特に、「持続可能性」というテーマに関連して追加された小項目が多かったように思えます。下記に挙げる変更箇所は内容を確認しておくともよいでしょう。</p>	
大項目	中項目	小項目
1 公衆栄養の概念	B 公衆栄養活動の基本と展開過程	e エンパワメントと公衆栄養活動
		f 住民参加
		g ソーシャル・キャピタルの醸成と活用
		h 持続可能性（サステナビリティ）を踏まえた公衆栄養活動
3 栄養政策	C 管理栄養士・栄養士制度と職業倫理	e 職業倫理

5 地域診断と公衆栄養マネジメント	A 公衆栄養マネジメント	a 地域診断
	B 公衆栄養アセスメント	c 量的調査と質的調査の意義
6 公衆栄養プログラムの展開	A 地域特性に対応したプログラムの展開	d 地域包括ケアシステムの構築
	B 食環境整備のためのプログラムの展開	a 食物・食情報へのアクセスと食環境整備
		d 「健康な食事」の普及啓発
給食経営管理論		
概要	<p>全体的に変更は少なく、あっても微細な言い回しの変更が主であった印象です。 注目する点とすれば旧出題基準の小項目「給食の資源と管理」が中項目に格上げされ、その中に小項目「給食運営における人的資源」が新たに追加されたことが挙げられます。</p>	
大項目	中項目	小項目
2 給食経営管理の概念	B 給食の資源と管理	a 給食の資源と管理
		b 給食の原価構成と収支構造
		c 給食運営における人的資源
		d 大量調理機器の種類と機能
4 給食経営における品質管理、生産管理、提供管理	D 提供サービス	a 配膳・配食における精度管理、配食・配膳システム
応用力試験		
概要	<p>出題基準改定検討会の報告書には、「個人や集団の栄養課題に取り組んでいく上で必要とされる知識、思考、判断力がより求められるため、応用力試験問題の更なる充実が必要である」と明記されています。出題基準上では出題傾向に影響が出そうな変更点は見つかりませんでしたが、検討会の意向を踏まえると、思考力・判断力を問う問題が今後も出題されるでしょう。過去問を中心に、個人・集団での栄養管理のPDCAを行う上で必要となる知識をまとめておきましょう。</p>	